

ギニアの人々の生命を守る日本の救急車

在ギニア日本国大使館

ギニアの首都コナクリ市内を移動していると、「京都市」や「箱根町」と書かれた救急車を目にする場合があります。これらは、2014年に日本外交協会を通じ、ギニア保健当局に対し供与された中古の救急車で、2022年現在でも活用されています。

ギニアの医療体制は大変脆弱で、世界銀行のデータによると、国民500人当たり医療関係者（医師、看護師または助産師）が1人しかいないとされています。一方、ギニアでは2013年のエボラ出血熱発生以降、ラッサ熱、マールブルグ熱、そして新型コロナウイルス等の感染症が発生しており、救急車は緊急の患者を対応可能な病院に輸送し、ギニアの人々の生命を救うことに役立っています。

